



# うどしまたろう

昔々あるところに、浦島太郎という若い漁師がおりました。

ある日、いつものように浜辺に行くと、村の子どもたちが、亀をいじめているのを見つけました。

「こら、亀をいじめてはいけませんよ。」

浦島太郎は、亀を助けると海に逃がしてやりました。

数日経って、浦島太郎が海で漁をしていると、亀がやって来ました。

「あのときは、助けてくださりありがとうございます。お礼がしたいので、私と一緒に竜宮城に来てくれませんか。」

「それなら、少し行ってみようかな。」

浦島太郎は亀の背中に乗り、どろんどろん海の底へ潜って行きます。

すると、とても立派なお城が見えてきました。

亀は、「さあ、ここが竜宮城です。」

竜宮城に着くと、美しい乙姫様が浦島太郎を出迎えてくれました。

浦島太郎は、豪華な料理をごちそうになったり、魚たちの踊りを見たりして、楽しい時間を過ごしました。

「なんて素晴らしい所なんだ。」  
乙姫様は言いました。

「このままずっと竜宮城にいてください。」

こうして、浦島太郎は夢のような日々を過ごしました。

ところがある日、浦島太郎は村に残してきた母親のことが気になりました。

「そろそろ家へ帰ります。今までありがとうございます。」

乙姫様は引き留めようとしたが、浦島太郎の気持ちは変わりません。

乙姫様は、「この玉手箱を持って行ってください。決して開けてはいけませんよ。」

そう言って、浦島太郎を送り出しました。

こうして浦島太郎は、再び亀に乗って陸に戻りました。しかし、村の様子はすっかり変わっていました。とても長い長い年月が過ぎていたのです。

困った浦島太郎は、乙姫様の言いつけを守らず玉手箱を開けてしまいました。

すると、玉手箱の中からは白い煙がもくもくもく。浦島太郎はあっという間に白髪のおじいさんになってしまいました。

(おしまい)